

令和6年度地方における孤独・孤立対策推進事業交付金 事業実施報告書

【事業内容】

1. 地方版官民連携プラットフォームの構築

1. 事業の概要

孤独・孤立対策について、核となり企画・検討を行う「富山県孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム幹事会」の開催及びプラットフォーム会員の募集、公表

2. 事業実施の経緯・背景及び目的

本県の自殺者数は、平成15年の356人をピークに近年減少傾向にあったが、令和2年以後増加していたほか(R①162人→R②193人→R③184人→R④198人)、NPO団体等との意見交換において、相談者を適切な支援につなげるため、支援団体間のつながりを強化する必要があるとの指摘があった。

3. 事業の成果及び工夫した点

令和6年10月「富山県孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」を設置した。その際、①核となり企画・検討を行う「幹事会」(大学教員、医師、NPO、県社協、フリースクール教員、児相など10名)と、②広く県民に参加を呼びかけ、主として普及啓発を目的とした勉強会に参加する「プラットフォーム」の2層構造とした。幹事会では「孤独・孤立について寄り添うというのは基本的な姿勢として求められると思うが、一人一人違う課題があると思うので、専門的で個別的な支援が必要な場合うまくそういった支援につながる仕組みがあればいい」等の意見が出ており、引き続き、支援者が専門分野以外の支援について理解を深める必要があるほか、庁内からは住民に近い市町村の参画促進が必要との意見が出ている。

4. 事業の課題と次年度に向けての展望

令和6年度勉強会で出た意見のブラッシュアップや、普及啓発を目的とした勉強会の開催内容等の検討

市町村の参加促進

2. 孤独・孤立対策関連事業の実施

(③ 関係者間の活動等に係る情報共有や相互啓発活動を実施)

1. 事業の概要

主として支援・関係団体の職員を対象として、孤独・孤立問題への理解を深めるとともに、連携

強化を目的とした勉強会を複数回開催

グループごとにファシリテーターを配置しグループワークを行い、少数での事例検討や情報・意見交換の場を設ける。

## 2. 事業実施の経緯・背景及び目的

NPO 団体等との意見交換において、相談者を適切な支援につなげるため、支援団体間のつながりを強化する必要があるとの指摘があった。また、「令和 5 年度地方版孤独・孤立対策 官民連携プラットフォーム推進事業」において県民を対象にした調査を実施したところ、40 歳代男性（11.8%）、30 歳代女性（15.3%）が最も孤独を感じる割合が高く、男性では 40・50 歳代、女性では 30・40 歳代をピークに年代が上がるにつれて孤独感が低くなる傾向が分かっている。

## 3. 事業の成果及び工夫した点

プラットフォーム幹事を講師として、孤独・孤立対策について理解を深める勉強会を開催し、孤独・孤立対策総論のほか、前年度調査において孤独感の強い「富山県の女性の孤独・孤立」などをテーマとして全 4 回を開催した。

第 1 回勉強会 令和 6 年 12 月 10 日

「孤独・孤立って何？-何が課題なのか-」

講師：立瀬剛志 氏（国立大学法人富山大学 疫学・健康政策講座 助教）

第 2 回勉強会 令和 7 年 1 月 21 日

「孤独・孤立」の予防と心の健康づくり-「共感」を大事に-

講師：麻生光男 氏（富山県心の健康センター 所長）

第 3 回勉強会 令和 7 年 2 月 17 日

「つながりサポーター養成講座」

講師：根岸督和 氏（NPO 法人あなたのいばしょ（東京都） 理事長）

第 4 回勉強会 令和 7 年 3 月 10 日

「富山県の女性の孤独・孤立」

講師：炭谷靖子 氏（高岡市社会福祉協議会理事、富山カウンセリングセンター監事、ウエルリポート協議会副代表）

「令和 5 年度地方版孤独・孤立対策 官民連携プラットフォーム推進事業」において収集したメーリングリストを使用し開催案内を行ったところ、平均して現地 30 名、オンライン 30 名程度の参加者があった。

## 4. 事業の課題と次年度に向けての展望

支援者同士の横の繋がりを作る必要性については、勉強会参加者から重ねて意見が出された。引き続き勉強会を開催し、お互いの活動について自由に意見交換できる時間を増やして実施したい。